



# 心理学 リスクに効く

NO.3  
リスク・コミュニケーション

**KGU** 関東学院大学  
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

大友章司

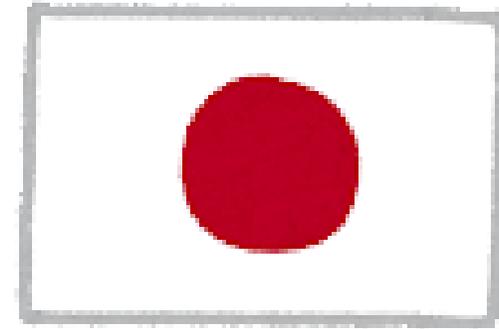
## >(復習)リスク概念の捉え方

**リスク**・・・人間の営みによって起こる、自らの責任に  
帰せられるものであり、自由の裏返し



欧米では、  
「良いリスク」と「悪いリスク」を区別  
\*リスク社会論における「自由の裏返  
し」としてのリスク

Ulrich Beck  
ドイツの社会学者



日本では、  
リスクは、受動的、消極的で、「天から  
降ってきた迷惑」や危険なもの  
「台風メンタリティ(天災)」の感覚  
が強い。

# 1 リスク・コミュニケーションとは

個人やグループ、そして組織との間で、リスクに関する情報や意見を交換する相互作用の過程が求められる。

## リスク・コミュニケーションの定義(木下, 2016)

対象のもつリスクに関する情報を、リスクに関係する人々(ステークホルダー)に対して可能な限り開示し、互いに共考する(一緒に考える)ことによって、解決に導く道筋を探す思想と技術である。

木下富雄 (2016). リスク・コミュニケーションの思想と技術 共考と信頼の技法 ナカニシヤ出版

➡ **信頼と共考が重要**



## >リスク・コミュニケーションで求められること

**情報の両面提示:** ベネフィットだけでなく、リスクについても可能な限り開示し、両面性と透明性を確保する。



**情報の双方向性:** 関係者の中で双方向のコミュニケーションが行われ、情報が共有される。

**効果性の評価:** 関係者が共考するプロセスを通じて、信頼性を醸成する土台を形成する。

**通底する価値観:** 公正さ、信頼と責任、信頼性の基本精神



## 2 リスク・コミュニケーションに対する誤解

1) 説得のためのコミュニケーションではない。

→リスク・コミュニケーションは関係者間の相互作用の場



**科学者による市民への機械的人間観:**リスクとベネフィットに基づく情報を伝えれば、市民が合理的決定を行うと期待すること。  
→コミュニケーションしたからといって説得できるものではない。



2) 市民がリスクを理解しないのは知識を欠いているからという「欠如モデル」

↑市民のリスク認知を是正することに焦点をあててしまう誤解

→技術情報は必ずしも理解されなくても、不要であるとは限らない。

### 3 リスク・コミュニケーションの捉え方

①リスク・コミュニケーションは説得の手段ではない。



②リスク・コミュニケーションは、関係者がともに考える機会を提供するもの



③リスク情報だけでなく、安心情報など、感情的反応にも対応するコミュニケーションが必要である。

